# 古参者×新参者
# 一緒につくるまちなかの未来

まちなかを生まれ変わらせようと取り組んでいるのは、もちろん新しく動き始めた人だけではありません。昔からまちなかの発展を支え続ける人々や老舗なども、みんなが一緒になり本気で取り組んでいます。

共愛学園前橋国際大教授の奥田雄一郎さんをコーディネーターに、昔のまちなかを知る「古参者」と、新たな風を吹かせる「新参者」の皆さんがまちなかへの思いを語りました。

## 確実に感じるまちなかの変化

前橋中心商店街
協同組合理事長
**植木 修**さん

**植木**　最近動きが出始めているのを実感しています。何十年もかかって衰退してきたから、元に戻すのは非常に難しいし長い年月が必要。でも若い人たちが増えてきて、すごく期待しています。

**黒田**　徐々に若い人が来てくれるようになっていますよね。学生たちが今いろいろ関わって頑張ってくれていてうれしいです。

## まちなかは面白いがいっぱい

**奥田**　僕はまちに関わり始めてまだ2年。昨年、まちなか研究室で授業をやり始めたところです。皆さんがまちに関わりだしたきっかけは何だったのでしょうか。

**吉田**　大学で、アーツ前橋ができてまちなかはどう変わったのかを研究したのがきっかけですね。商店街との関わりが人生で初めてで、なんだか漫画やアニメの世界みたいだなって。まちなかにいるのが楽しかったので、シェアハウスを作って住んじゃいました。

**竹本**　私がグラッサでアルバイトを始めたのは、まちなかでの活動に関わっている奥田教授からの紹介。商店街とかまちなかという存在が面白いと感じていて、そんな面白い場所においしい店があるならここで働きたいって思いました。

**植木**　若い人がまちに関心を持って、一度でも多く足を運んでくれるっていうのはうれしいことです。若い頃に経験しておくと歳をとっても愛着を持っていられるしね。

**村井**　私はとにかくまちなかで仕事がしたかった。前も仕事をまちなかでしていて、毎日のように来ていて面白いなって。のんびりした感じがまたいいのかな。

**奥田**　ゆったりするとか人と話すのを楽しむとか、そういうのが前橋っぽいなって思いますよね。

**竹本**　一言で言うとまちなかは面白い人が集まる場所。いろいろな人と関わり始めてそう思いました。

共愛学園
前橋国際大教授
**奥田 雄一郎**さん

## ここで生まれた新たな目標

**黒田**　若者ならではの想像力で、今まではまちなかに来なかったような人が来てくれるような仕掛けが増えてきた。私は、その来てくれた人たちにここの良さをいつも見せられるようにしていたい。まちを回遊できるような仕掛けを、一緒に作っていきたいです。

**植木**　私は商店街の代表として、お店の人に自信を持ってもらい、

前橋まちなか
エージェンシー
**吉田 祐介**さん

来てくれる人をみんなで楽しませていきたい。高齢者、若い人、いろいろな人に精一杯おもてなしして、楽しんでもらえるまちなかにしていきたいなって思います。

黒田人形店
**黒田 桂子**さん

**村井**　若い人がいるだけで元気な感じがするし、活気が出ますよね。その人たちにまちなかは楽しいって思ってほしい。実際に面白いお店も増えてきているので、派生してどんどん増えていったらいいな。

**吉田**　私は若い人やまちづくりに興味があるような人たちを、まちと結び付けていきたい。めぶくフェスやまちなか新聞、commがそんなきっかけになるといいなと。そして僕たちだけでなく、いろいろな人がそういう活動をしてくれることを期待しています。

喫茶マルカ
**村井 美予**さん

**竹本**　ここではいろいろな人とつながれるチャンスがある。それを生かしていきたい。イベントに参加したら、グラッサの人ですよねと何回も言われてすごくうれしかったんです。そういうつながりみたいなのが残るしつくれる場所なんだなって思います。

グラッサでアルバイト中
**竹本 将人**さん

**奥田**　昔からまちなかを見続け、知り尽くした人がいる。そして、まちなかで新しい価値を見出している人がいる。まちなかに集まるいろいろなスペシャリストが、個性を生かしながら、みんなで交じり合っていく。一緒に新たな価値をつくっていけたら、まちなかの未来は明るいなと思いますね。

## まちなかTOPICS

### シェアハウス

吉田さんが住むシェアハウスはオリオン通りにある。まちなかにはいくつかのシェアハウスがあり、若者たちが共同生活を送っている。

### グラッサ・なか又

今年8月に開店。前橋ビジョンで掲げた10のプロジェクトのうちの2つが実現して開店に至った。県内外から客が訪れ新たな食のスポットとしてまちなかをにぎわせている。

### 前橋まちなか新聞

まちなかでのイベントやお店を紹介。昨年MMAによってデザインをリニューアルした。まちなか周辺の店主に店への思いやルーツを聞いたインタビュー記事が見どころ。


市役所　〒371-8601 大手町二丁目12-1　☎027-224-1111　FAX 027-224-3003

力を合わせ、着実に、一歩一歩。

# 私たちのまちなかを未来につなぐために

「今までにもいろいろな動きがあったと聞いています。その中で積み上げたこともあるし、それを除外して新たに積み上げていくことも、これからは考えなくてはいけない」と奥田教授。

長年にわたって、さまざまな取り組みを進めてきたまちなか。効果があった取り組みよりも、なかなかうまく進まなかったことの方が多いかもしれません。それでも試行錯誤を続け、近頃起きている新たな動きによって、歯車がゆっくりとですが、再び未来に向けて動き出しています。

実際、まちなかの空き店舗は年々減少。出店希望者も増えていて、今後ますます店舗の増加が期待されます。また、まちなかを訪れる人も増加傾向に。休日の通行量が平成27年に比べて、昨年は増加したという調査結果もあります。まだまだ課題は多くありますが、このように少しずつ結果が出始めています。

座談会に参加した皆さんは、まちなかでの新たな動きに期待していると口をそろえて言いました。

しかし、まちなかでの動きを知らない、自分には関係ないと、どこか他人事と思う人も多くいるのが現実です。でも、前橋の人であれば必ず知っている場所であり、何かしら思い出がある場所ではないでしょうか。そんな場所が、他にいくつもあるでしょうか。そう考えると、今まちなかはどんな様子なのかな、こんな場所になったら楽しそうだなと、少しまちなかのことが気になってきませんか。

植木さんはこう言います。「昔みたいにさ、前橋中の人にまちなかはいいところだよって胸を張って言ってもらいたいよね。前橋といったらここ、まちなかだから」。

このまちなかは、私たちのまちなかです。前橋にとって、そして私たちにとって大切な場所だと誇りを持ち、未来に引き継いでいかなければなりません。

## 誇りを持ち未来につなぐ

紙面では
伝えきれなかったことを
ホームページで
公開中です

まちなかでの取り組みは1年、2年で大きく変化するものではないかもしれません。何十年と時間がかかるかもしれません。

ですが、まちなかでは確実に新しい動きが起きています。これを一過性のものにせず、着実にその歩みを進めていこうと、皆が本気でまちづくりに取り組んでいます。

時にはイベントで人との交流を楽しむ。時にはアートや芸術に触れる。時にはコミュニティに参加する。そんな新しいまちなかの楽しみ方が続々と生まれています。

植木さんと黒田さんは、「若い人が頑張っている。私たちまちの人間も、一緒に頑張っていかないとね」と、決意を新たにしています。

そして、彼らの取り組みに力を与えるのは私たちです。まちなかは、市民に愛され、訪れてもらい、楽しんでもらうことで元気になっていきます。

まちなかに新たな価値を。私たちのまちなかを、私たちの手で未来につなぐ挑戦は続きます。


市役所　〒371-8601 大手町二丁目12-1　☎027-224-1111　FAX 027-224-3003